

2023年 3月期 決算説明会

2023年5月24日
八千代工業株式会社

■ 決算説明

経理部長

初山 武志

■ 事業の経過と方向性

代表取締役社長

可知 浩幸

■ 決算説明

経理部長

初山 武志

■ 事業の経過と方向性

代表取締役社長

可知 浩幸

- 2023年3月期 第4四半期 連結決算
- 2024年3月期 連結業績見通し

- 2023年3月期 第4四半期 連結決算
- 2024年3月期 連結業績見通し

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	前期比 (増減率)
売上収益	1,642億円	1,882億円	+240億円 (+14.6%)
営業利益 (対売上収益比率)	105.2億円 (6.4%)	109.4億円 (5.8%)	+4.2億円 (+4.0%)
税引前利益 (対売上収益比率)	119.1億円 (7.2%)	123.3億円 (6.5%)	+4.2億円 (+3.5%)
当期利益 (対売上収益比率)	64.1億円 (3.9%)	75.3億円 (4.0%)	+11.3億円 (+17.6%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (対売上収益比率)	51.5億円 (3.1%)	59.7億円 (3.2%)	+8.2億円 (+15.9%)
為替レート (USドル)	112円	136円	24円 円安

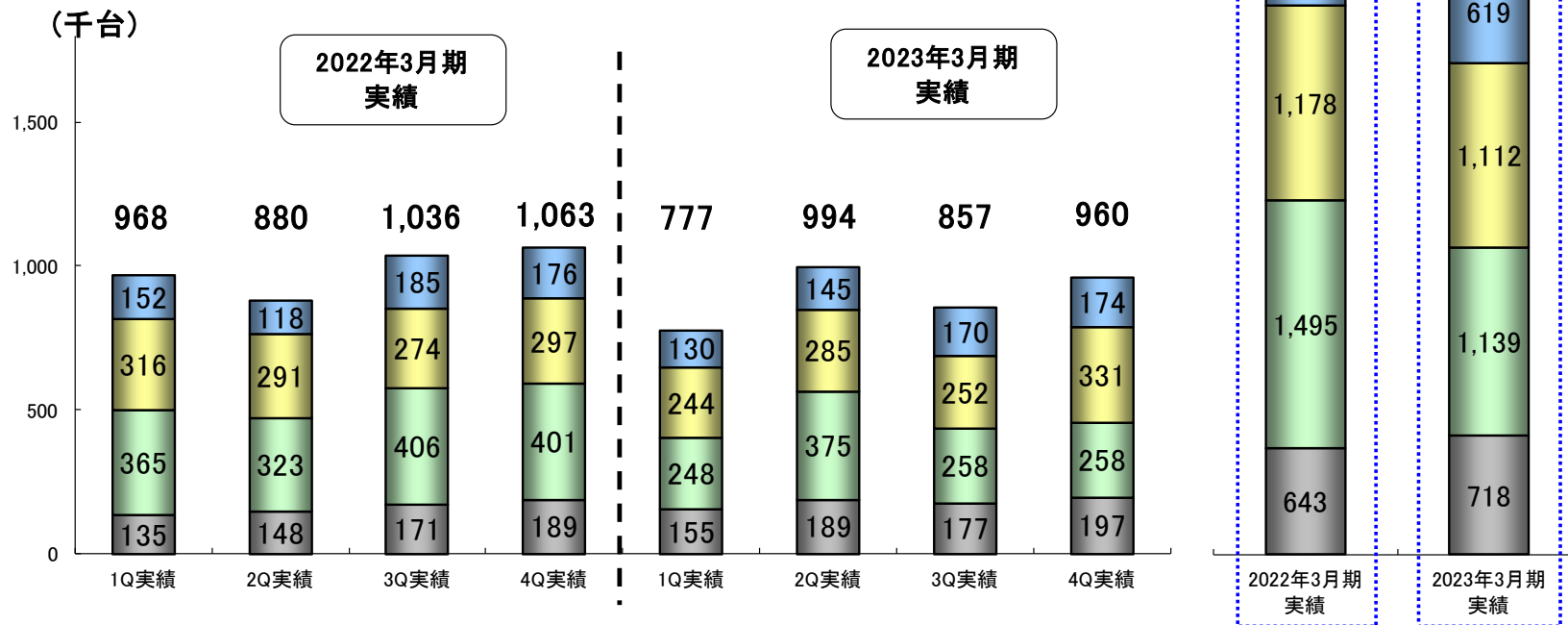
2023年3月期 (12ヶ月間) 燃料タンク概況

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	前期比 (増減率)
出荷台数合計	3,947千台	3,588千台	-359千台 (-9.0%)
日本	631千台	619千台	-12千台 (-1.7%)
米州	1,178千台	1,112千台	-66千台 (-5.6%)
中国	1,495千台	1,139千台	-356千台 (-23.8%)
アジア	643千台	718千台	+75千台 (+11.7%)
売上収益	442億円	466億円	+24億円 (+5.4%)
為替影響を除く 売上収益	-	405億円	-37億円 (-8.4%)

← 内、為替影響+61億円

-359千台
(-9.0%)

■日本 ■米州 ■中国 ■アジア



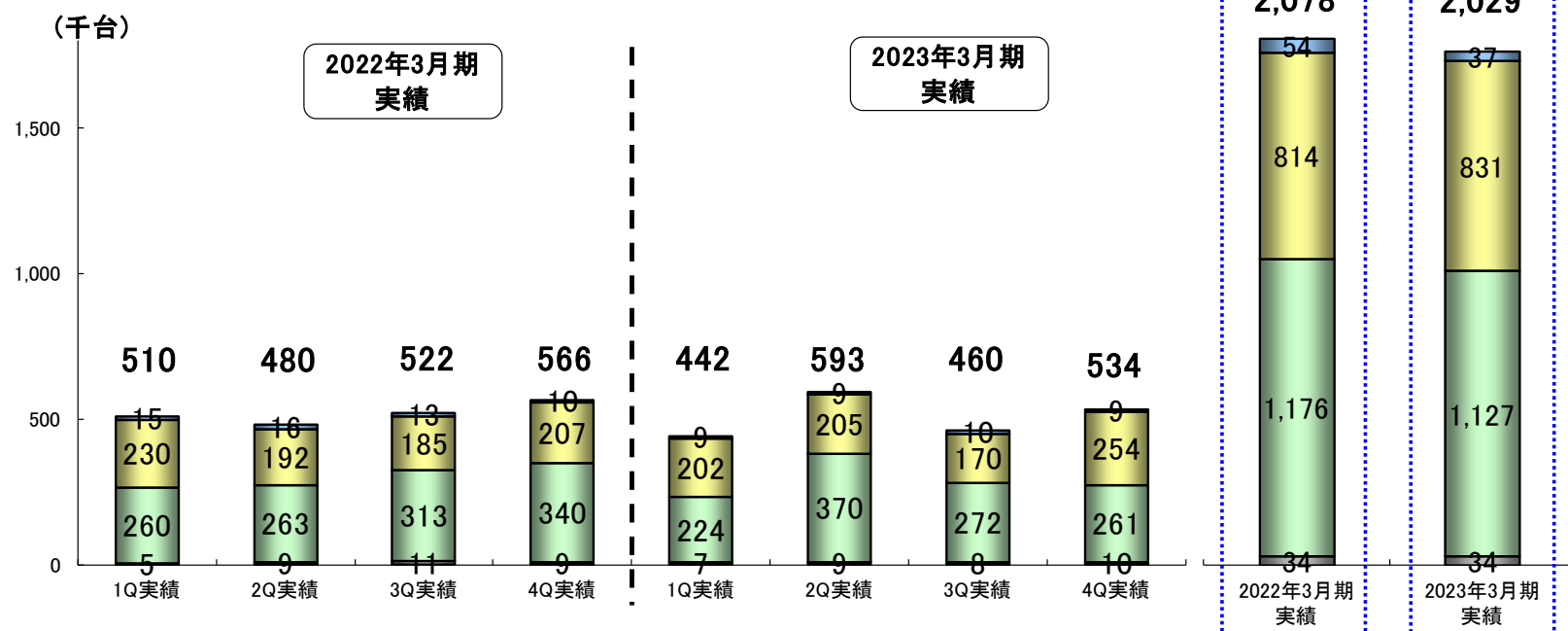
2023年3月期 (12ヶ月間) サンプル概況

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	前期比 (増減率)
出荷台数合計	2,078千台	2,029千台	-49千台 (-2.4%)
日本	54千台	37千台	-17千台 (-31.8%)
米州	814千台	831千台	+17千台 (+2.1%)
中国	1,176千台	1,127千台	-49千台 (-4.2%)
アジア	34千台	34千台	-0千台 (-1.7%)
売上収益	471億円	549億円	+78億円 (+16.6%)
為替影響を除く 売上収益	-	476億円	+5億円 (+1.0%)

← 内、為替影響+73億円

-49千台
(-2.4%)

■日本 ■米州 ■中国 ■アジア

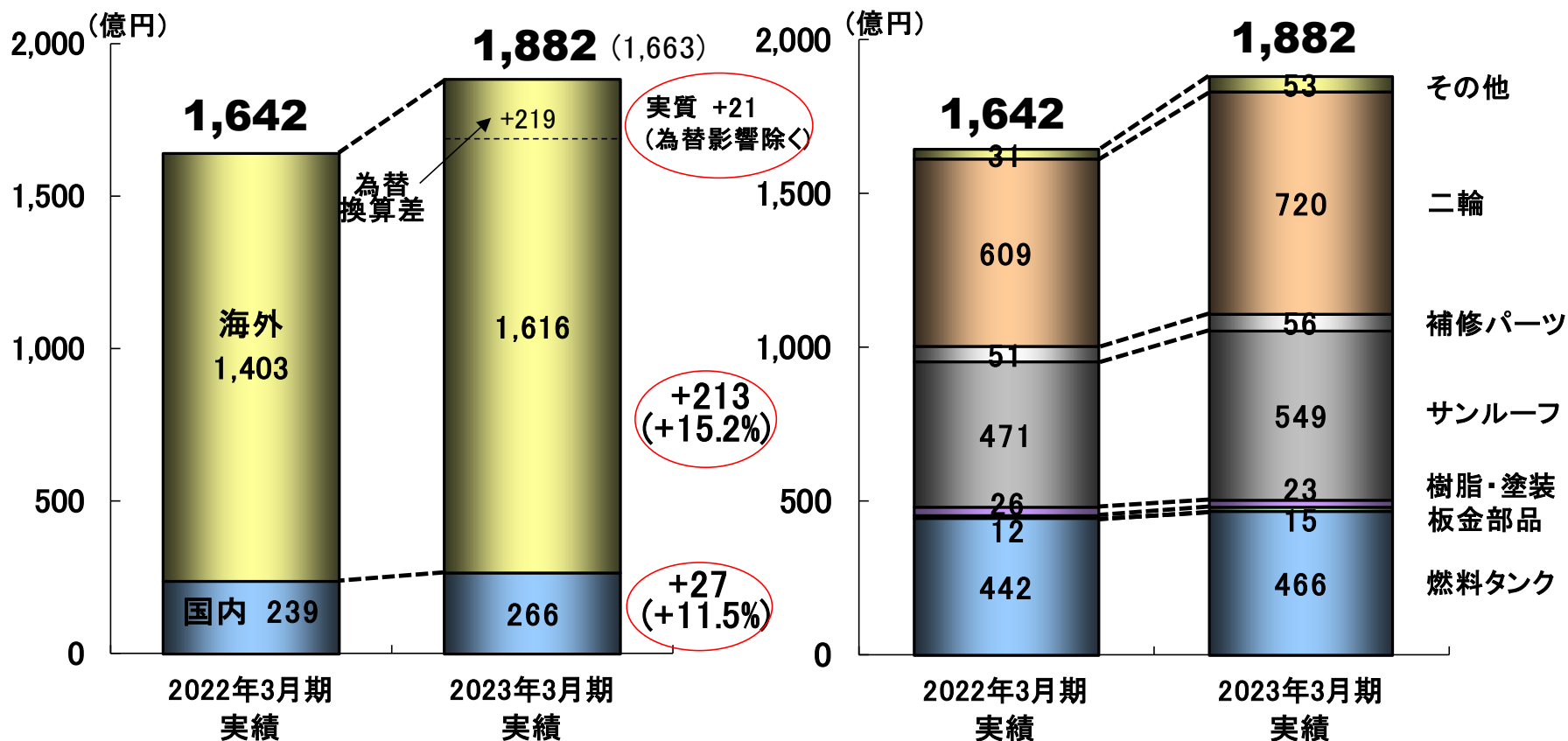


2023年3月期 (12ヶ月間) 製品別売上概況

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	前期比 (増減率)
売上収益	1,642億円	1,882億円	+240億円 (+14.6%)

国内／海外区分

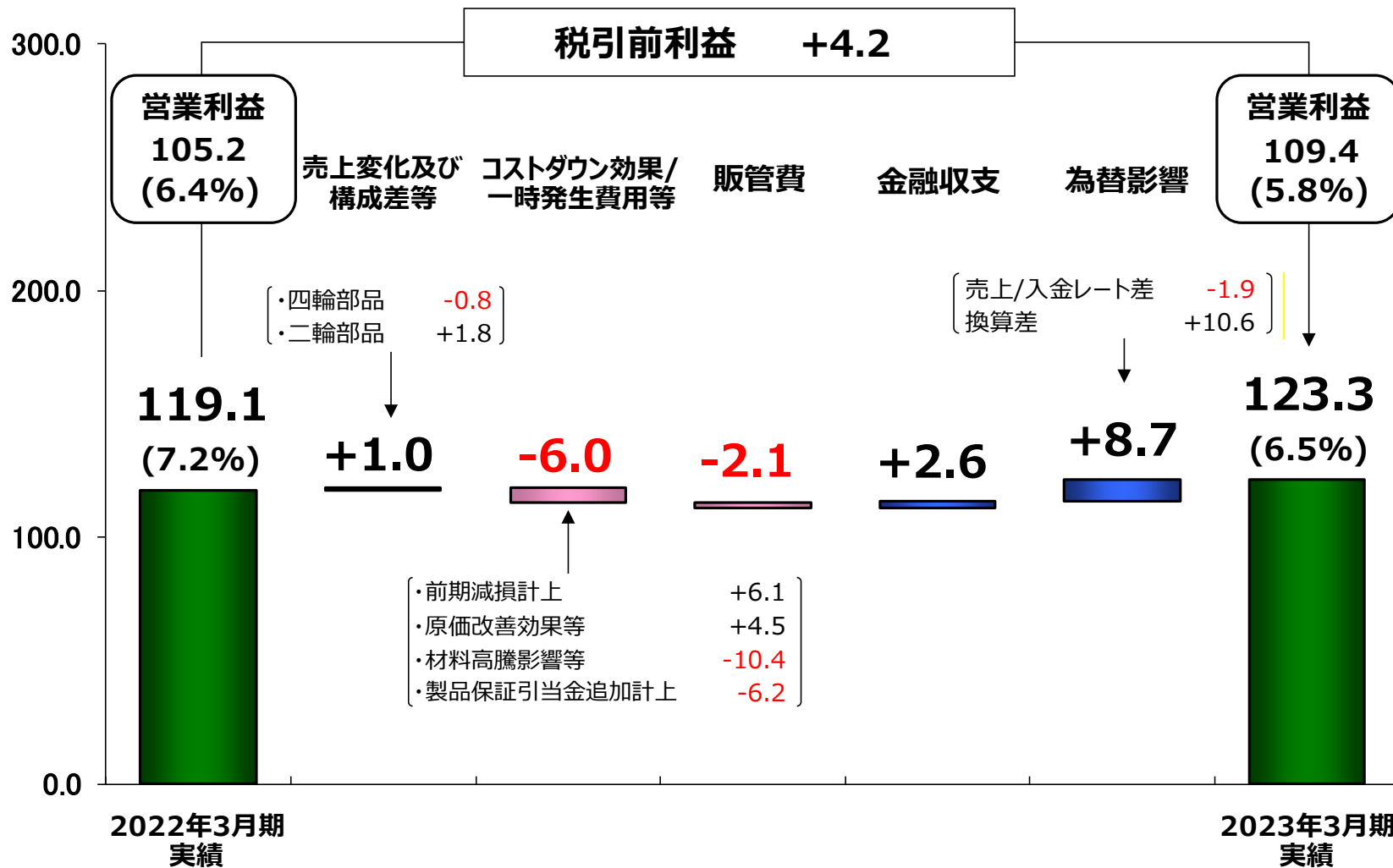
製品別区分



2023年3月期 (12ヶ月間) 連結税引前利益増減要因

(単位：億円)

売上収益 1,642 $\xrightarrow{+21}$ $\xrightarrow{+219}$ 1,882



2023年3月期 (12ヶ月間) 所在地別セグメント情報

(単位：億円)

【日本】

売上収益 +27	
・四輪部品売上増	+10
・二輪部品売上増	+17
税引前利益 +1.3	
・売上変化及び機種構成差	+7.5
・材料高騰影響	-0.2
・光熱費/輸送費高騰影響	-5.3
・前期減損計上	+6.1
・原価改善効果等	+2.0
・販管費増減	-5.3
・金融収支	+0.3
・為替影響	-3.8

【米州】

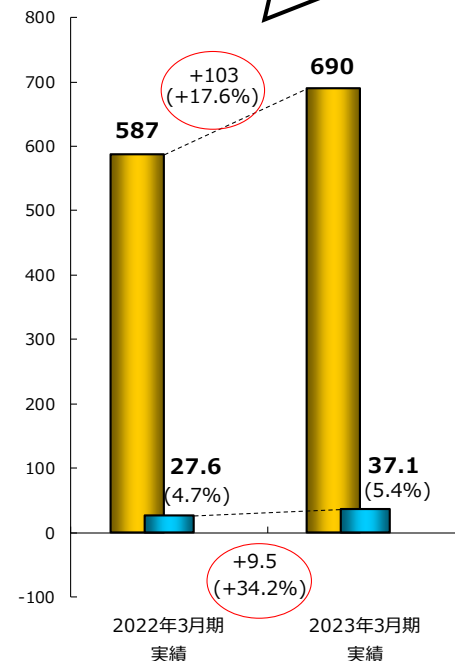
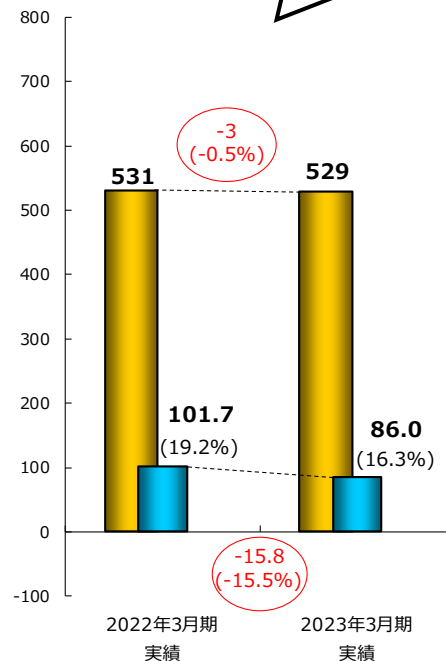
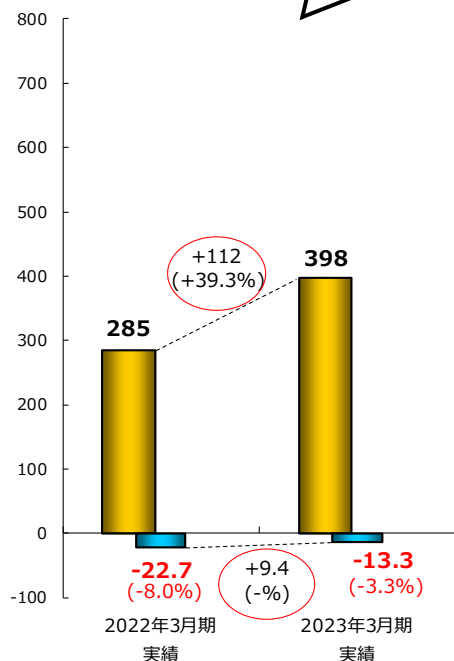
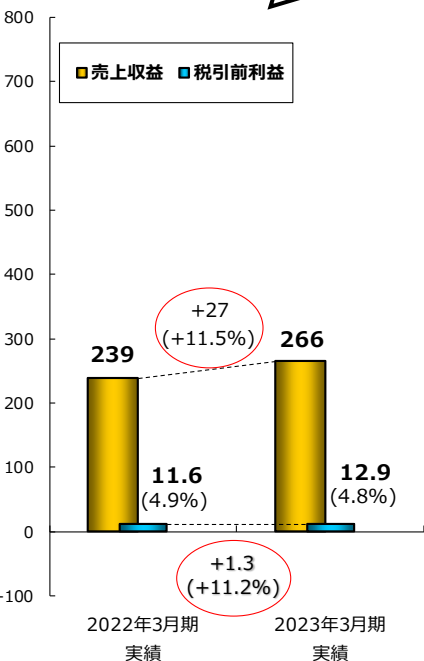
売上収益 +112	
・四輪部品売上増	+41
・為替影響	+71
税引前利益 +9.4	
・売上変化及び機種構成差	+15.9
・材料高騰影響	-0.9
・製品保証引当金追加計上	-6.2
・販管費増減	+0.1
・金融収支	+0.9
・為替影響	-0.4

【中国】

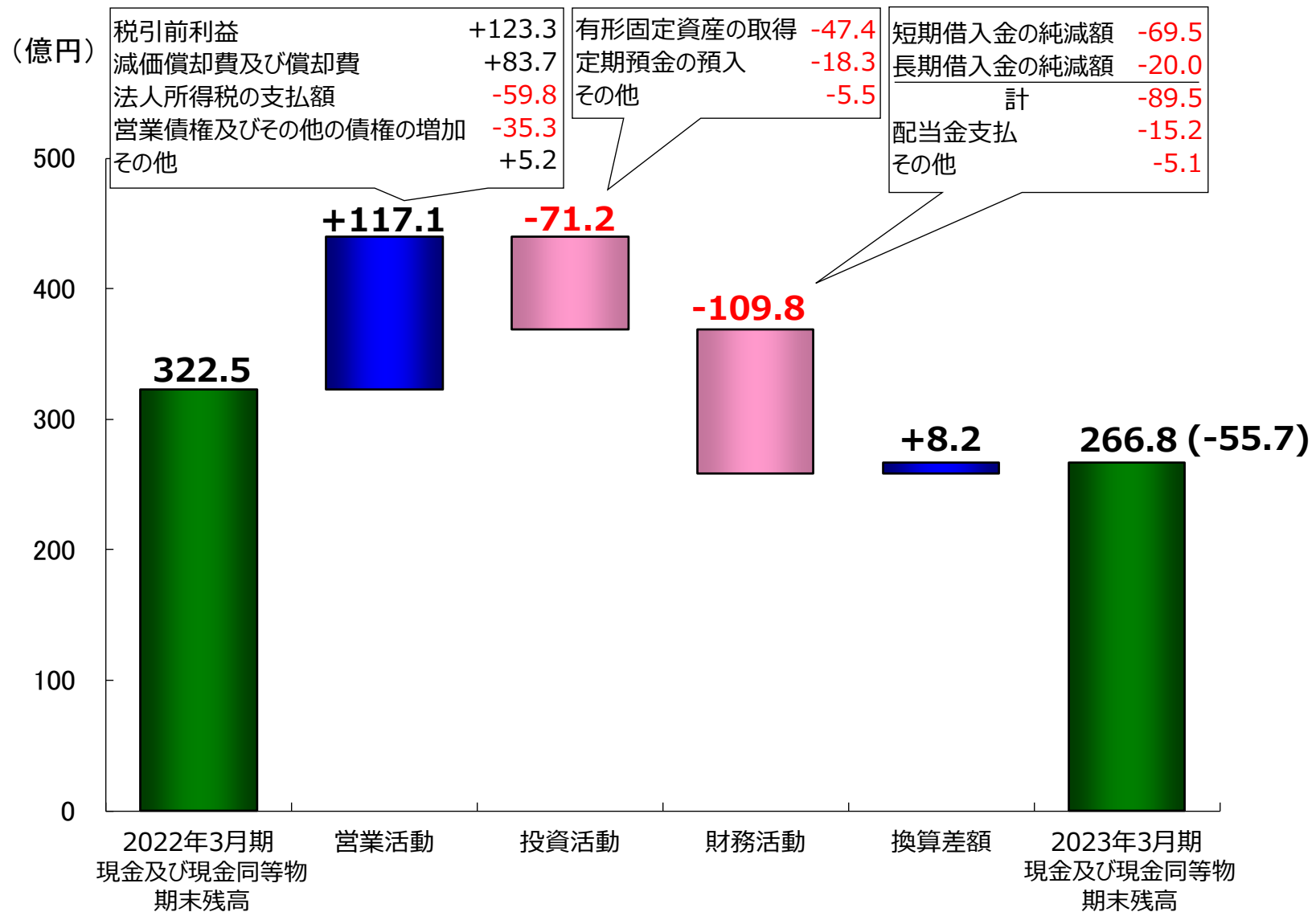
売上収益 -3	
・四輪部品売上減	-65
・為替影響	+62
税引前利益 -15.8	
・売上変化及び機種構成差	-28.7
・材料高騰影響等	-3.5
・原価改善効果等	+2.7
・販管費増減	+3.9
・金融収支	+0.9
・為替影響	+8.9

【アジア】

売上収益 +103	
・四輪部品売上増	+7
・二輪部品売上増	+10
・為替影響	+86
税引前利益 +9.5	
・売上変化及び機種構成差	+6.3
・材料高騰影響等	-0.5
・販管費増減	-0.8
・金融収支	+0.5
・為替影響	+4.0

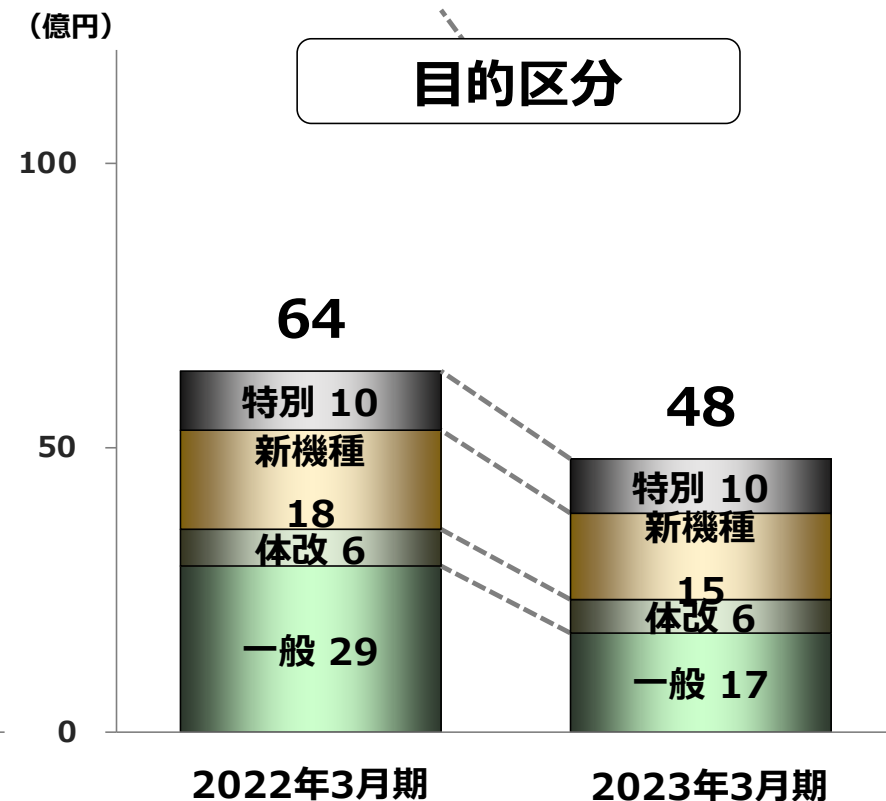
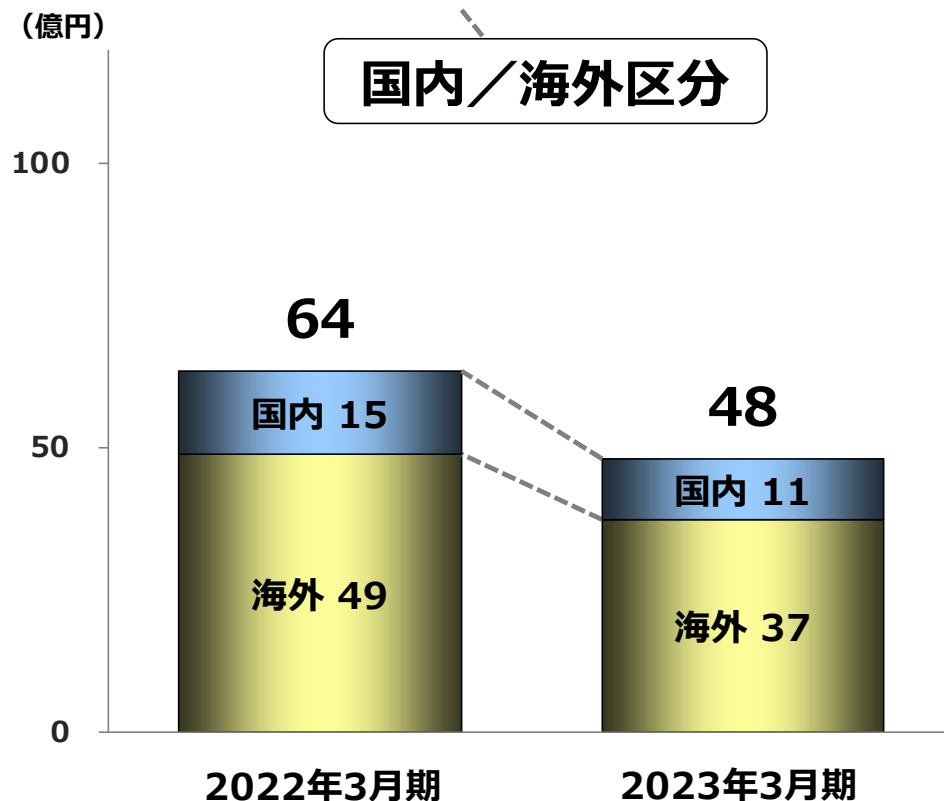


2023年3月期 連結キャッシュ・フロー



	2022年3月期	2023年3月期	増減	コメント
資産合計	1,433億円	1,423億円	-10億円	営業債権及びその他の債権 +43億円 現金及び現金同等物 -56億円 棚卸資産 -12億円
負債合計	669億円	574億円	-95億円	営業債務及びその他の債務 +26億円 借入金 -88億円 その他の金融負債 -22億円
親会社持分	626億円	698億円	+72億円	包括利益 +79億円 配当金支払 -7億円
非支配持分	138億円	152億円	+14億円	包括利益 +22億円 配当金支払 -8億円
資本合計	764億円	849億円	+85億円	—————
負債及び資本合計	1,433億円	1,423億円	-10億円	—————
有利子負債残高	179億円	90億円	-89億円	日本 -80億円 米州 -12億円 アジア +3億円
親会社所有者帰属持分比率	43.7%	49.0%	+5.3pt	—————
有利子負債依存度	12.5%	6.4%	-6.1pt	—————
1株当たり親会社所有者帰属持分	2,614円	2,912円	+298円	—————

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	前期比 (増減率)
設備投資	64億円	48億円	-15億円 (-24.4%)



- 2023年3月期 第4四半期 連結決算
- 2024年3月期 連結業績見通し

	2023年3月期 実績	2024年3月期 計画	前期比 (増減率)
売上収益	1,882億円	1,740億円	-142億円 (-7.6%)
営業利益 (対売上収益比率)	109.4億円 (5.8%)	95.0億円 (5.5%)	-14.4億円 (-13.2%)
税引前当期利益 (対売上収益比率)	123.3億円 (6.5%)	92.0億円 (5.3%)	-31.3億円 (-25.4%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (対売上収益比率)	59.7億円 (3.2%)	33.0億円 (1.9%)	-26.7億円 (-44.7%)
為替レート (USDドル)	136円	120円	16円 円高

2024年3月期の連結業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した予想であり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績は様々な要因の変化により、記載の業績予想とは大きく異なる結果となり得ますことをご承知おきください。今後修正の必要性が生じた場合は、適時かつ適切に開示してまいります。

2024年3月期 燃料タンク 売上台数&売上収益 見通し

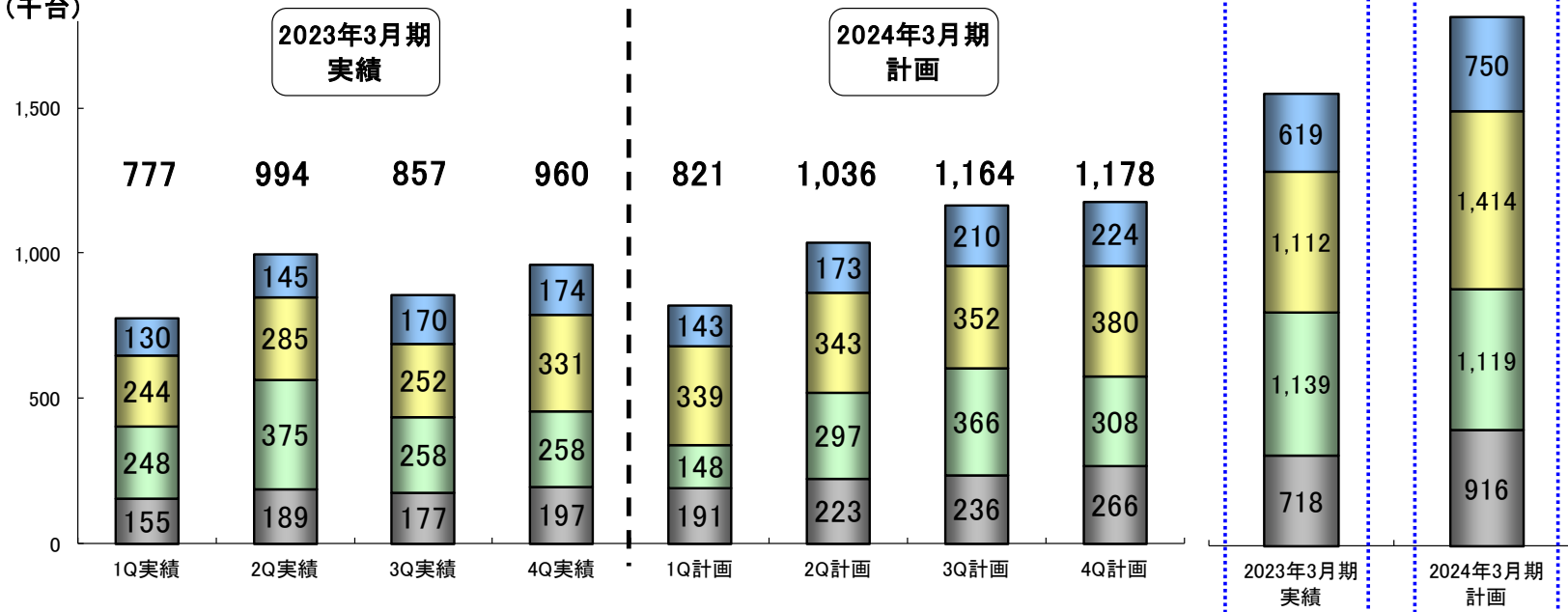
	2023年3月期 実績	2024年3月期 計画	前年度比 (増減率)
出荷台数合計	3,588千台	4,199千台	+611千台 (+17.0%)
日本	619千台	750千台	+131千台 (+21.2%)
米州	1,112千台	1,414千台	+302千台 (+27.1%)
中国	1,139千台	1,119千台	-20千台 (-1.8%)
アジア	718千台	916千台	+198千台 (+27.5%)
売上収益	466億円	446億円	-20億円 (-4.3%)
為替影響を除く 売上収益	-	497億円	+31億円 (+6.7%)

← 内、為替影響-51億円

+611千台
(+17.0%)

■日本 ■米州 ■中国 ■アジア

(千台)

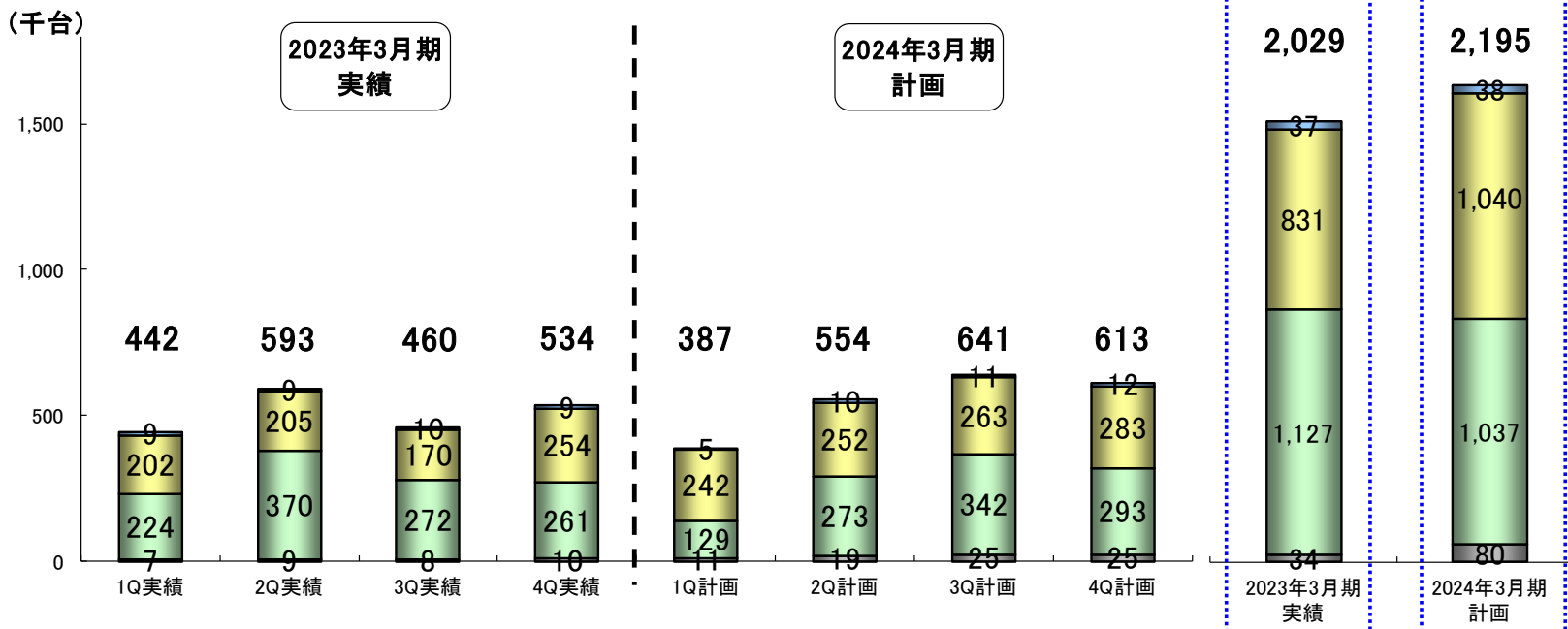


2024年3月期 サンプルフ 売上台数&売上収益 見通し

	2023年3月期 実績	2024年3月期 計画	前年度比 (増減率)
出荷台数合計	2,029千台	2,195千台	+166千台 (+8.3%)
日本	37千台	38千台	+1千台 (+5.1%)
米州	831千台	1,040千台	+209千台 (+25.2%)
中国	1,127千台	1,037千台	-90千台 (-8.0%)
アジア	34千台	80千台	+46千台 (+136.4%)
売上収益	549億円	507億円	-42億円 (-7.7%)
為替影響を除く 売上収益	-	574億円	+25億円 (+4.6%)

← 内、為替影響-67億円

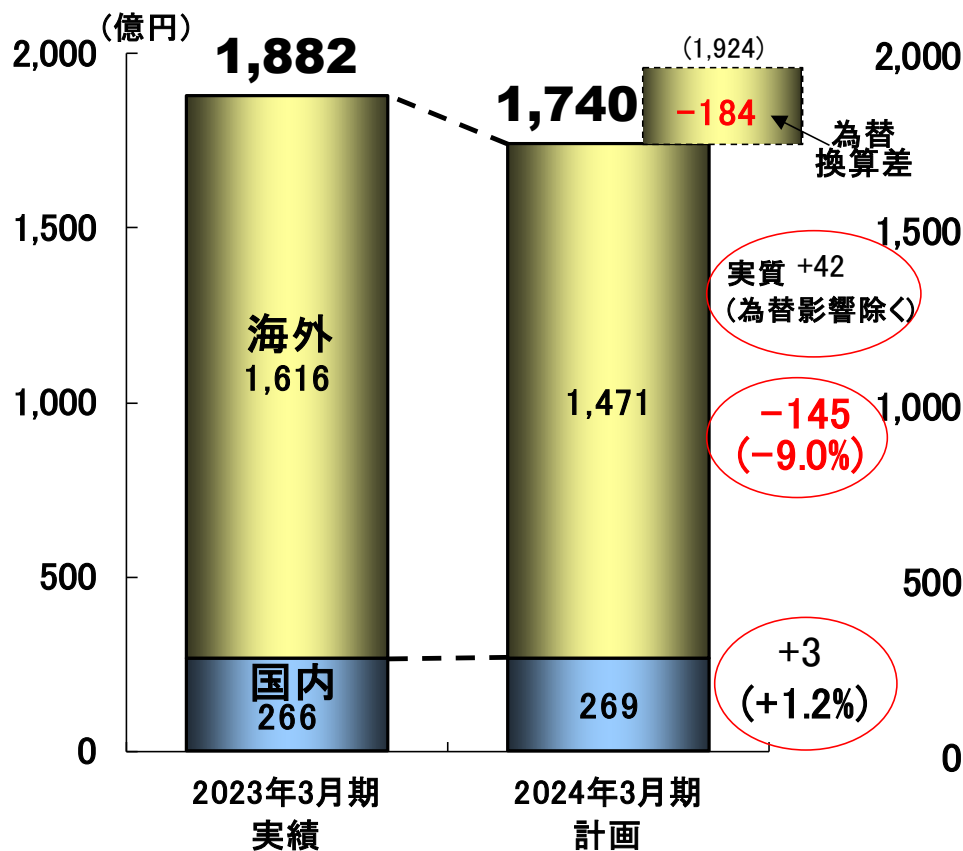
■日本 ■米州 ■中国 ■アジア



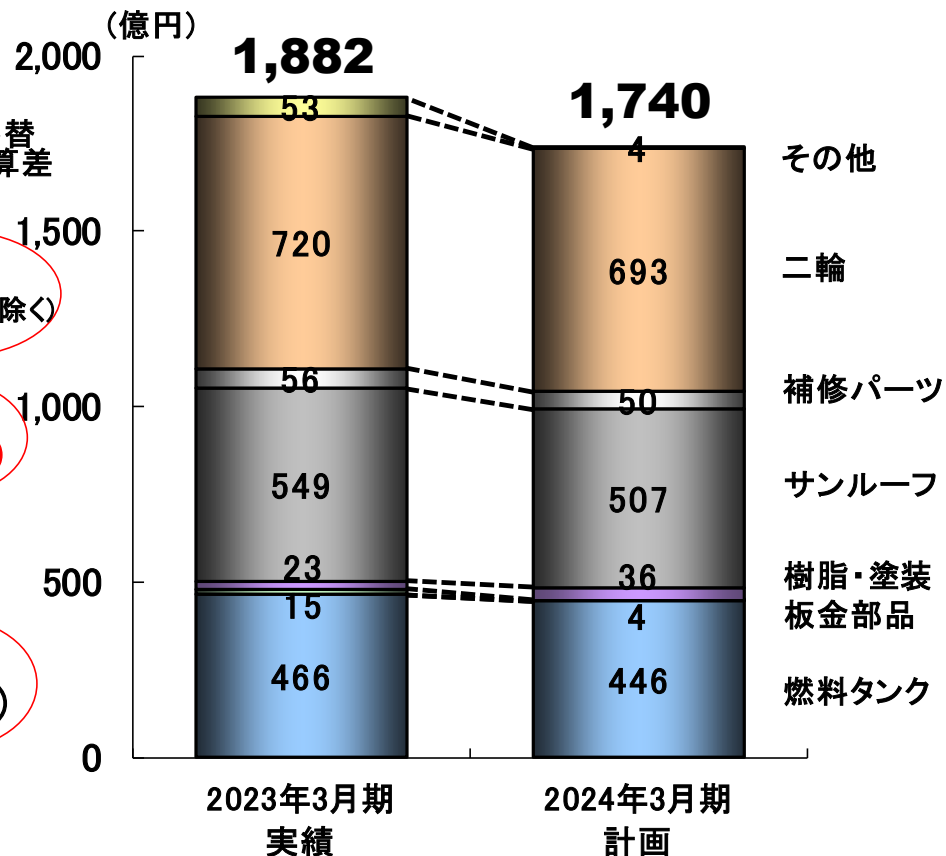
2024年3月期 製品別売上見通し

	2023年3月期 実績	2024年3月期 計画	前年度比 (増減率)
売上収益	1,882億円	1,740億円	-142億円 (-7.6%)

国内／海外区分



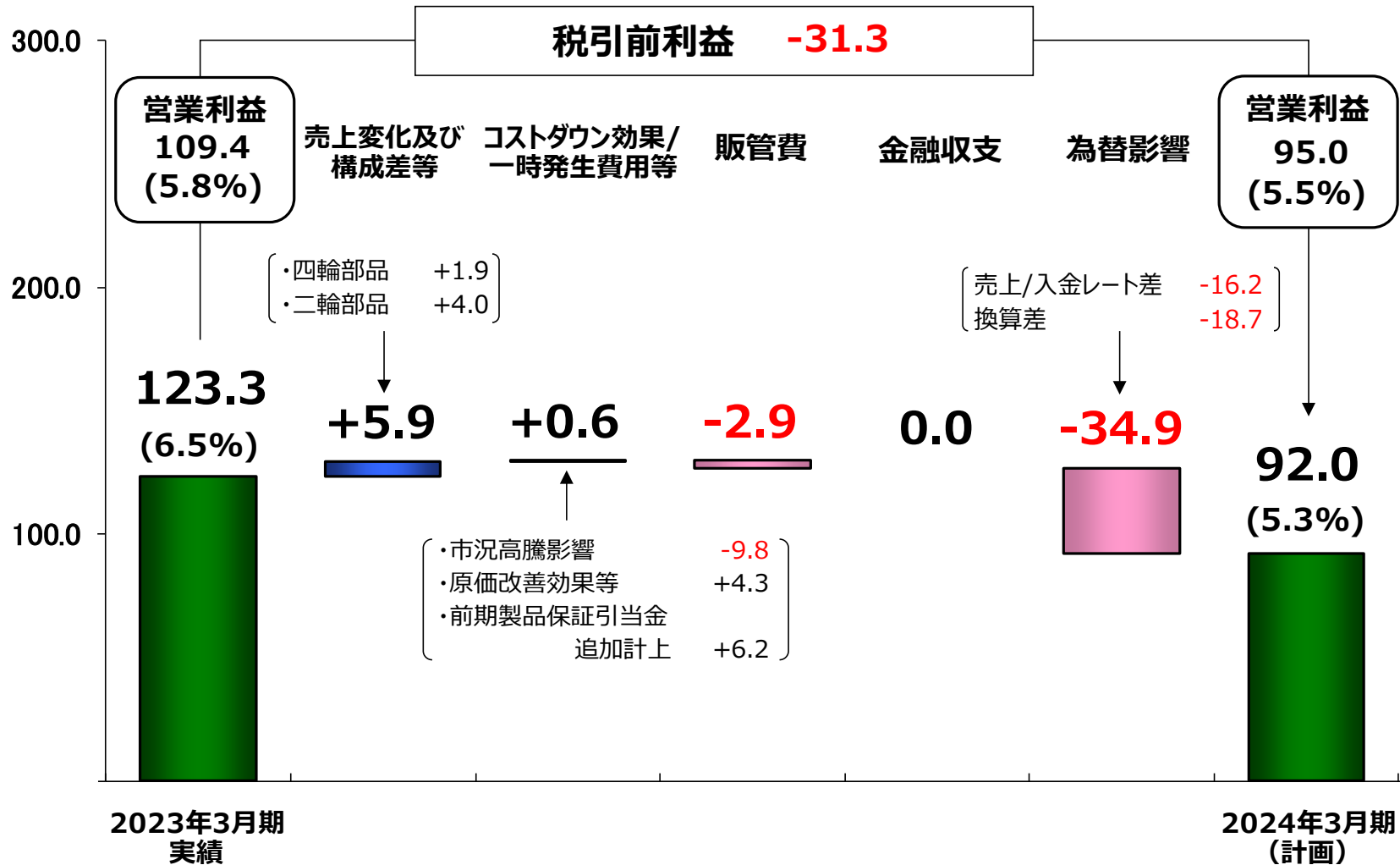
製品別区分



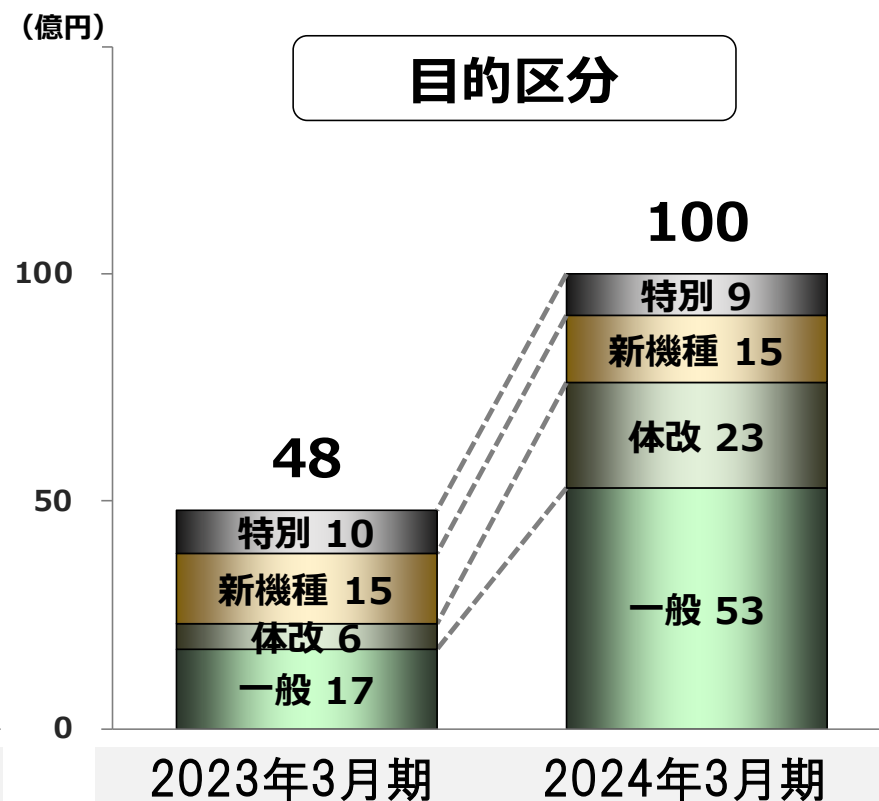
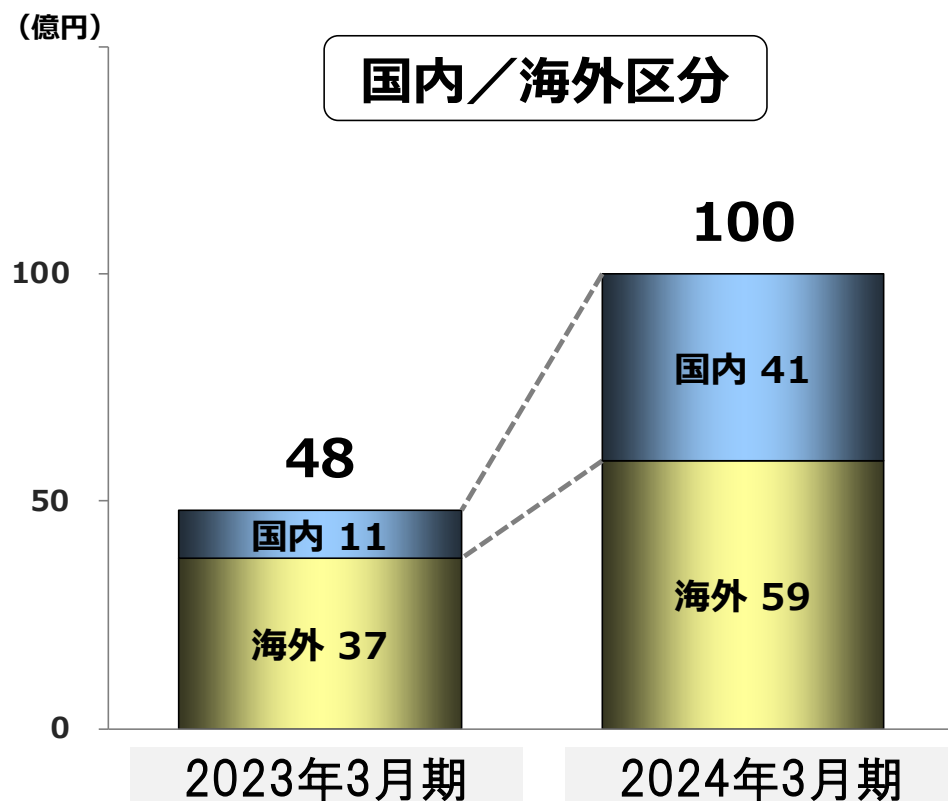
2024年3月期 連結税引前利益増減要因 前年度比

(単位：億円)

売上収益 1,882 $\xrightarrow{+42}$ 増減 $\xrightarrow{-184}$ 為替換算影響 1,740



	2023年3月期 実績	2024年3月期 計画	前期比 (増減率)
設備投資	48億円	100億円	+52億円 (+108.1%)



【配当に関する基本方針】

当社の資本政策につきましては、長期的な企業価値の向上を図るため、持続的な事業の成長に向けた設備及び研究開発を含む戦略的な投資を可能とする強固な財務基盤を確保すること、株主の皆様へ安定的な利益還元を実施することを基本としております。

	2022年3月期	2023年3月期 (予定)	2024年3月期 (予定)	前年度比 (増減)
中間配当金	6円	17円	(11円)	-6円
期末配当金	12円	(17円)	(11円)	-6円
年間配当金	18円	(34円)	(22円)	-12円
連結配当性向	8.4%	13.6%	16.0%	2.4%

本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいて算定しており、判断や仮定に内在する不確定性及び今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる可能性があります。尚、上記の不確定性及び変動可能性を有する要素としては、主に以下のものがあります。

- ・主要市場における経済情勢及び需要の変動
- ・為替相場の変動
- ・主要市場における貿易規制等の各種規制
- ・主要市場における政治情勢
- ・当社が事業活動を行う上生じる当社の責めに帰すことのできない様々な障害

■ 決算説明

経理部長

初山 武志

■ 事業の経過と方向性

代表取締役社長

可知 浩幸

第14次中期 (20-22中期)

さらなる成長の基盤づくり
基盤の確保 健全化 風土改革

Vision 2030



たゆ

ものづくりの弛まぬ進化で
モビリティのキーカンパニーになる

第14次中期


重点施策	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	達成度
競争力強化・ものづくり進化	販路拡大 ：新規顧客開拓 競争力ある製品の実現 ：新たな技術の仕込みと進化			<ul style="list-style-type: none"> ・Honda様以外から新規で6件受注 ・樹脂バックドアモジュールを開発
事業基盤の盤石化	生産体質改革 ： グローバル高位平準化、徹底した原価改善 日本、米州事業の健全化加速			<ul style="list-style-type: none"> ・原価改善や間接部門の効率化推進 ・量産立ち上げ後のコスト守り切り ・米州は効率改善などにより生産体質が向上
品質保証体質の強化	品質体質強化 ：開発領域・量産領域、体質領域			<ul style="list-style-type: none"> ・品質不具合は減少 ・各生産現場において品質体質向上
人と組織の活性化・人材強化	企業風土改革 『一致団結』、『自ら挑戦し、進化する集団』への変革			<ul style="list-style-type: none"> ・従業員満足度は課題を把握、施策推進により満足度向上 ・企業風土改革を推進
企業価値向上に向けたサステナビリティ展開	環境負荷低減活動 社会貢献活動		カーボンニュートラル	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷低減施策は計画通り推進 ・カーボンニュートラルは2050年達成に向けたロードマップの作成を推進

サンルーフ

-  ● 大手自動車メーカー様
ボードサンシェードを新規受注
2024年夏ごろ生産開始予定
-  ● 現地の自動車メーカー様
ロールサンシェードを新規受注
2024年春ごろ生産開始予定
- 同社からさらに一機種を受注




燃料タンク


-  ● マルチ・スズキ様
2機種目受注
2022年7月から生産開始




樹脂・塗装部品

-  ● ダイハツ様
バンパー 3機種目を受注
2023年末頃から生産開始予定
- トヨタ様
大型樹脂外装パーツを受注



-  ● GPX様
二輪向け17部品を受注
生産量を拡大



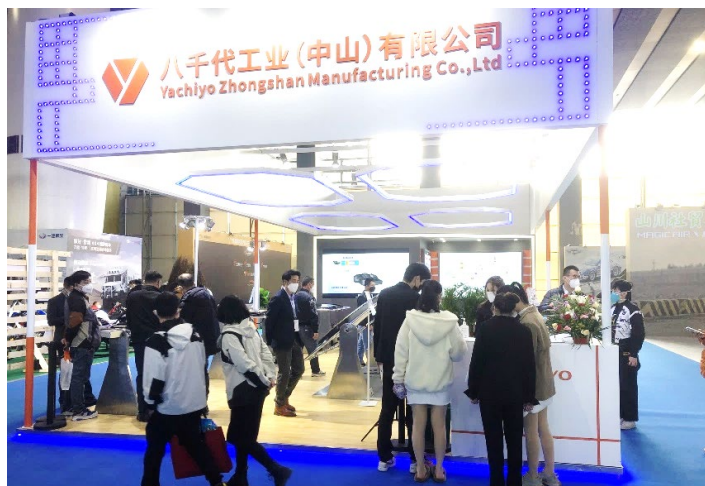
-  ● 部品メーカー様（3社）
合計で15の電着塗装部品を受注



新規受注、販路拡大を継続して推進した

広州モーターショー 2022.12

当社製品の商品力や技術力を発信した



インドAUTO EXPO 2023.1

サンルーフが急成長するインドにて現地の自動車メーカーからご興味をいただいた



FC EXPO 2023.3

当社の水素社会への取り組みを自動車以外の産業界へ認知を広げることができた



各展示会で積極的に製品PRを行った

取り組みへの思い

過去の反省と教訓を生かし

より強固な未然防止策へ進化

品質検証による体制維持と改善

取引先と協力し「品質検証/品質パトロール」を実施

- ・品質システム改善
- ・生産準備&品質実績に基づく工程検証
- ・品質システム維持継続検証

管理項目の遵守徹底



作業遵守レベルの向上



遵守状況を合同で検証

Hondaサプライヤーアワード受賞



品質・調達部門 優秀賞



調達部門 優秀賞



さらに品質保証の強化に取り組んだ結果、お客様からの表彰につながった

企業風土改革に向けた取り組み

一致団結への変革

社内コミュニケーションの活性化

従業員同士および経営と従業員がコミュニケーションを図れる施策を展開



TOPとの直接対話で従業員のモチベーション向上



地域を超えた一体感、目的意識の向上イベント

自ら挑戦し進化する集団への変革

アイデアコンテスト

アイデアを具現化できる機会の創出で、従業員自らが挑戦する機運を高め、チャレンジ意欲を向上



全ての座席と足元に（座席から降りてしまっている可能性有り）超高感度重量マットセンサーを搭載

圧力センサーが検知して、人が乗っている、と頭上のランプが点灯

人が乗っているかが、一目で確認できる

働きやすい職場環境

育休制度の充実

社内コミュニケーションツールの活用で制度を浸透。男性の取得率も向上



交流イベントの充実

職場でのレクリエーション活動

従業員のご家族を職場に招待し、家族ぐるみでの一体感を向上



事業環境の変化に対応する企業体質を目指し施策を実施した

2023年3月期 活動実績



中国 米や油等の食料品を寄付



米国 フードドライブの実施



インドネシア 地震災害支援



日本

就労支援 パン販売代行



就労支援施設のお二人（中央）

隣接する企業と環境整備



隣接企業から感謝状をいただく

社会から期待される企業を目指し、地域社会への貢献活動を継続的に行った

15中 (23-25中期) 全社施策

- 1 技術・製品の確立による競争力強化
- 2 さらなる事業基盤の盤石化
- 3 品質保証の定着と質の向上
- 4 風土改革の実行と人材強化
- 5 サステナビリティ展開と実践

Vision 2030

ため
ものづくりの弛まぬ進化で
モビリティのキーカンパニーになる

第16次中期 (26-28中期)

飛躍に向けたチャレンジ

変革した要素で独創性を発揮し、新たな創造へ進む

第15次中期 (23-25中期)

変革の仕込みと事業体質の盤石化

新たな技術・製品の確立、風土改革が完了

第14次中期 (20-22中期)

さらなる成長の基盤づくり

収益基盤の確保 健全化 風土改革



2025



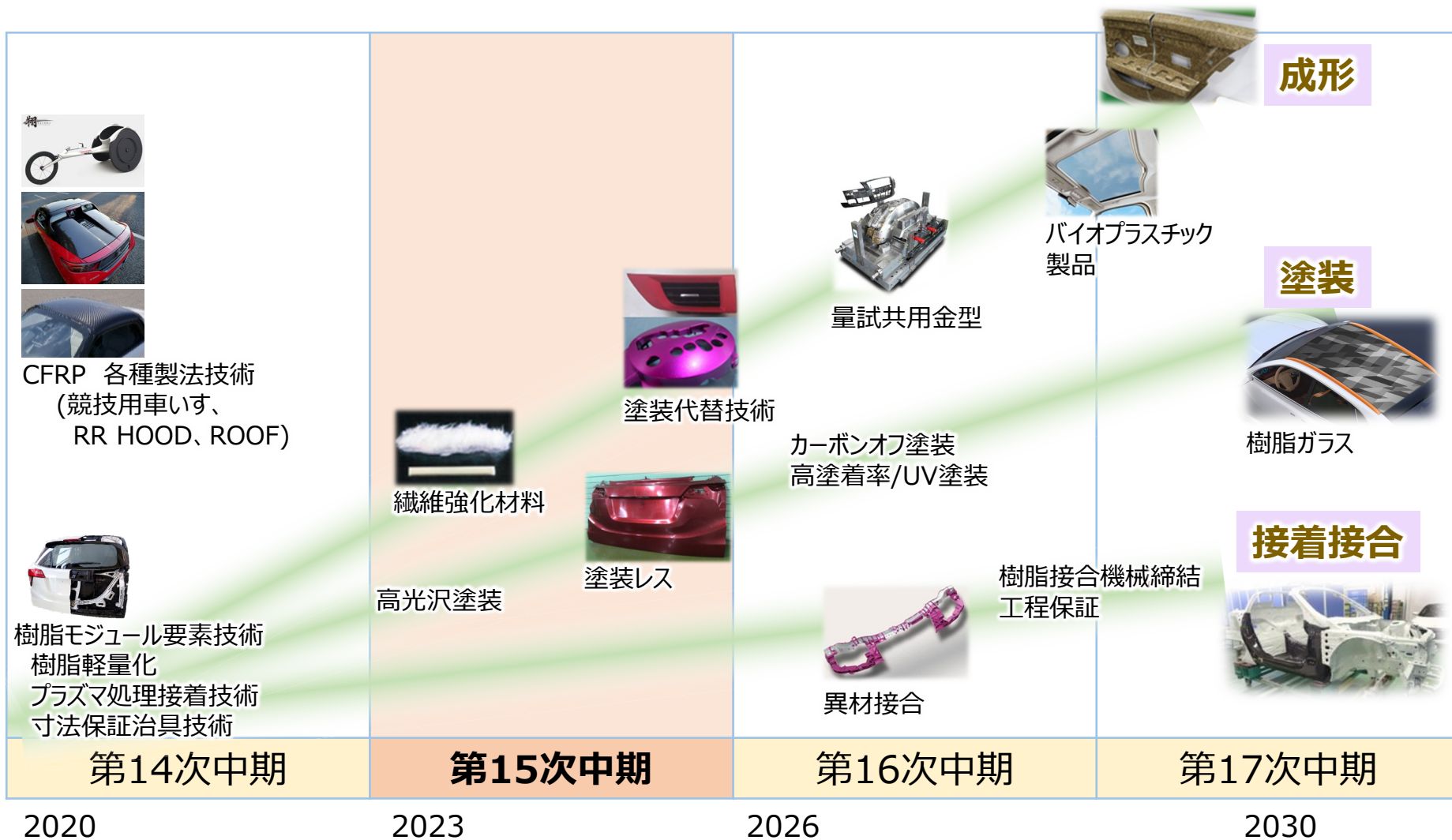
2030



2020

成長

飛躍



樹脂外板部品へ製品領域を広げるうえで、必要な要素技術を確立していく



トラック用



ドローン用



移動発電車



農機具用



大型トラック用



乗用車用

2030年開発完了
量産体制確立

新レイアウト、
プラットフォーム
適合開発

乗用 細径長尺開発

長尺ライナー、フィラメントワインディング進化

貯蔵構成部品進化

材料・製法

2024年
タンク開発完了
認証取得



TYPE4
Certification



TYPE4
HDV

第14次中期

第15次中期

第16次中期

第17次中期

2020

2023

2026

2030

将来の普及期にむけて、多様な仕様の量産体制の確立を目指す

インドにおけるサンルーフ市場の拡大に対応



ヤチヨ インディア マニュファクチャリング プライベートリミテッド

2019

工場を拡張
出荷検査を開始

組立を開始 (予定)

拠点の建屋を拡張 2019年に済
新規受注に伴い工場建屋を拡張

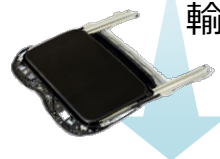


納入前の出荷検査を開始



中国で生産

輸出



インドで製品検査
客先へ納品

サンルーフの組立を現地化 (予定)

組立の現地化、部品の現調化に
より競争力強化



※生産ラインはイメージです

さらなる競争力強化を目指し、サンルーフ組立開始に向け準備を進める

サンルーフ

 **インド** 成長市場

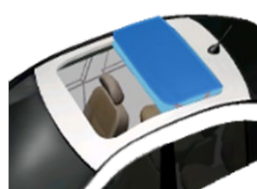


スタンダードサンルーフ

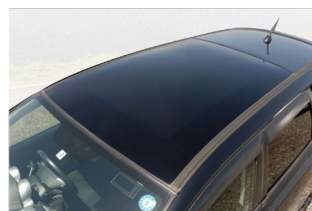
 **中国** 拡大市場



スタンダードサンルーフ

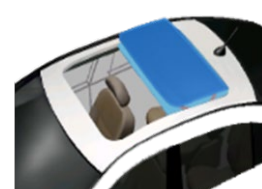


パノラマサンルーフ



ガラスTOP薄型ロールサンシェードモジュール

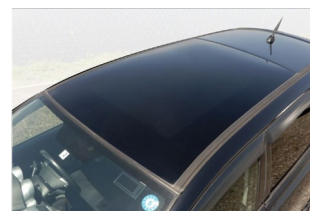
 **米国** 成熟市場



パノラマサンルーフ




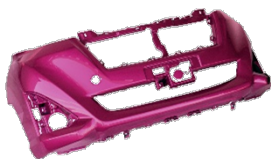
リアスライドウィンドウ




ガラスTOP薄型ロールサンシェードモジュール


樹脂・塗装部品

 **日本** バンパー、バックドアなどの大型樹脂成形部品



 **タイ** 二輪車用カウルなどの樹脂成形部品



 **米国** 電着塗装部品



各地域のニーズの変化を注視し、得意とする製品で販路を拡大

標準化やデジタル化、自動化を全拠点へ水平展開

間接部門

- ・業務フロー見直しによるショートプロセス化
- ・労務、給与など定型的なデータ集計作業のRPA※で自動連携 ※ ロボットによる業務自動化

生産部門

- ・現場帳票の電子化による入力や確認業務等の効率化

これまで



今後

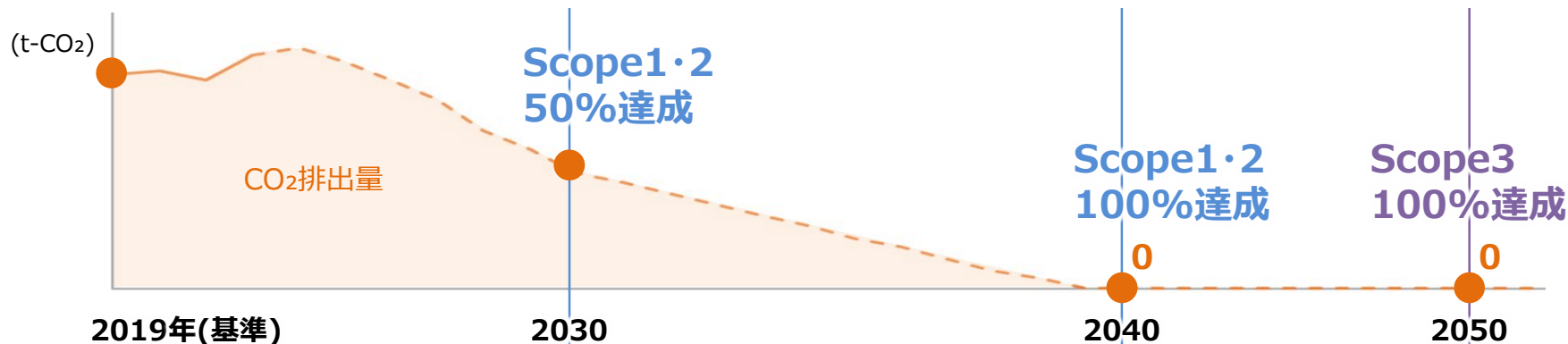


DX展開計画

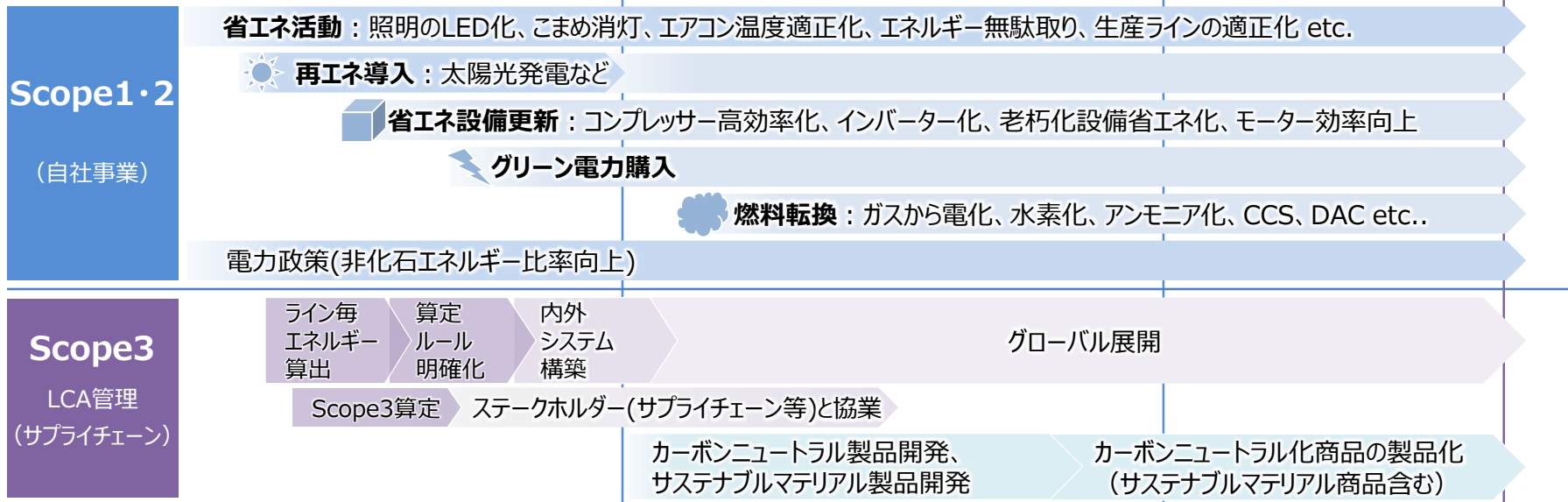
14次中期	15次中期	
2023年3月期以前	2024年3月期	2025年3月期
	<p>間接部門：営業・購買、総務など事務系を効率化 ■ 海外拠点</p>	
	<p>生産・開発部門：仕業点検表 ■ 国内生産拠点および開発拠点</p>	
		<p>生産部門：生産日報</p>
		<p>■ 海外拠点</p>

業務の電子化/RPA化により、DXを加速展開する

CO₂排出量削減目標



具体施策



設定した目標に対し、削減策を展開していく

